

理科 第6学年 生き物どうしのかかわり 検討会の想定問答

指摘 1：本時で何を見取るのか。

返し：「生き物は、食べ物や水、空気を通してどう関わっているだろうか」について、比較した資料や記録から根拠を選び、事実と自分の考えを区別して説明している。結論の暗唱ではなく、根拠の箇所を指し示せるかを見取る。本時は単元で集めた記録を整理する時間として置く。

指摘 2：活動だけで終わらないか。

返し：身近な生物の食べ物を資料で確かめ、食べられる側から食べる側へ矢印を引く。食べ物のつながりと酸素・二酸化炭素の関わりを別の図にし、同じ矢印の意味を混ぜない。活動後に中心の問いへ戻り、事実と説明を線でつなぐ。B(3)で求める理解と表現をそこで確かめる。

指摘 3：予想と違う結果が出た場合はどうするか。

返し：強い生物が全ての矢印の出発点になる場合、何が何に食べられるかを言葉に戻す。植物は呼吸しないという説明には、光合成と呼吸を区別する資料を用いる。予想に合わせて結果を書き換えず、条件や資料の読み方を再確認する。B(3)に関わる考えを見直す学習として扱う。

指摘 4：説明や記述が難しい子にはどうするか。

返し：比較する記録を並べ、対象・条件・時期を指差して話せるようにする。異なる資料を基に環境との関係を説明する活動では、教師が比較の視点を示してから児童の言葉で説明を聞く。代筆や図の使用は認めるが、考えそのものを教師が決めない。

指摘 5：安全や個人への配慮は何か。

返し：未知の生物を口に入らず、必要以上に採集しない。動物へ実験的に不適切な餌を与えない。実施前の点検ができない活動は共通の記録資料に替え、B(3)の問いを考える機会を確保する。

指摘 6：資料やICTはどのように使うか。

返し：身近な生物の食べ物を資料で確かめ、食べられる側から食べる側へ矢印を引く。食べ物のつながりと酸素・二酸化炭素の関わりを別の図にし、同じ矢印の意味を混ぜない。画面は拡大や並列表示に使い、端末がなくても印刷した同じ記録で比較できるようにする。ICTの操作の速さは評価しない。

指摘 7：時数の根拠と削る場合の考え方は。

返し：全6時間は東京書籍の年間指導計画による。各次の配分は本案の提案である。削る場合も「生き物は、食べ物や水、空気を通してどう関わっているだろうか」を追究する記録と説明の時間を残し、同じ資料を読む重複や清書の方法を見直す。安全確認や実物を確かめる過程は省かない。

指摘 8：振り返りと次の指導をどうつなぐか。

返し：「生き物は、食べ物や水、空気を通してどう関わっているだろうか」について最初の考え、根拠にした記録、まだ残る疑問を読み比べる。異なる資料を基に環境との関係を説明する活動で根拠が不足した児童には、その記録を次時の導入に戻して確認する。態度は感想の長さではなく、調べ方や説明を見直す行動を継続して見る。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

